

早稲田大教育 ○前川 静恵  
伊藤秀三郎

1. 現代社会を構成する因子として小家族が考えられ、小家族は個人に依って形成される。さてその個人に形成し得る素質があるかどうか疑問視される。この度演者等は、この素質の点を女子に就いて検討することを目的とし、以下の如き調査を聊か行った。

2. 調査での基礎的技術は、全国高等学校家庭科技術検定解説書(昭和40年度)に依って、その3級程度のものに決めた。被験者は関東地区にある女子高等学校A校(普通科97名)とI校(被服科101名)との2年生である。

調査方法は先ず被験者に基礎的技術を説明した印刷物を配布し実施して貰う仕組であり、作業点を集計して素質の評価点とすることにして調査を進めた。技術内容に触れるが、大別し被服と調理に関するもので、前者はまつる、ミシン縫、ボタンつけ、スナップつけ及びなみ縫いであり、後者は計量スプーン、計量カップ、自動ばかり及び温度計の取扱い方並びに調味料の計量及び食品の概量判定である。

3. 減点法による両校の評価点を比較すると、被服では余り相違がなく、調理にやや相違が認められる。

点数別度数を見ると、被服よりも調理の方がむつかしいことが判る。

被服技術と調理技術との相関を求めた所、その相関係数が小さく、両者の相関性はないと思われる。